

の手段であることを強調した。

16. 原発性肺癌における腫瘍マーカー (CEA, CA 19-9, Ta-4, NSE) の測定の意義

増岡 忠道 松枝 由美 大川日出夫
(日本鋼管病院)
渡辺古志郎 三本 重治 安田 三弥
(横浜市民病院)

原発性肺癌 55 症例の全体の各種腫瘍マーカーの陽性率は、NSE (39.6%) > CA 19-9 (33.3%) > CEA (31.5%) > TA-4 (27.8%) の順であった。組織別では CEA が腺癌 (52.9%) TA-4 が扁平上皮癌 (47.6%) NSE が小細胞癌 (64.3%) と陽性率が一番高く、各組織由来の特異性が認められた。病期別では、CEA, CA 19-9, NSE は病期の進行に従ってその陽性率も大きくなったが、TA-4 では II 期, III 期で陽性率が大きく IV 期では低下した。腺癌では CEA, CA 19-9 (64.7%), 扁平上皮癌で TA-4, CA 19-9 (73.7%), 小細胞癌で TA-4, NSE (84.6%), NSE, CA 19-9 (84.6%) と複数の組み合わせによる陽性率が単独の陽性率を大きく上回った。さらに少数例ではあるが、TA-4 で扁平上皮癌の II 期の 3/6 例に、また NSE で小細胞癌の II 期で 2/3 例にそれぞれ基準値を上回る陽性例が認められ、組織型による腫瘍マーカーの選択が必要なることを示唆された。

17. 甲状腺癌転移の検出における甲状腺機能低下時 I-131 スキャンと血清 Tg の測定の意義

高橋恵理子 太田 淑子 川崎 幸子
牧 正子 広江 道昭 日下部きよ子
(東女医大・放)

甲状腺分化癌の摘出術後の症例 60 例における転移巣の検索としての I-131 5 mCi 投与によるスキャンと血清サイログロブリン値測定の有用性について検討した。測定は、甲状腺剤投与中止時における甲状腺機能低下状態、および投与中に測定した。サイログロブリンの正常値を 37 $\mu\text{g/ml}$ としたとき、甲状腺機能正常時の転移出現率は、57% で、機能低下時には 100% と有意の差が認められた。また、甲状腺機能低下時のサイログロブリン値は転移の大きさに相関した。I-131 シンチグラムの転移

巣検出の sensitivity は、5 mCi で、67%, 80 mCi から 150 mCi の治療量では 85% であった。一方組織型に関しては、濾胞腺癌における sensitivity の方が、乳頭腺癌よりも高値を示した。以上より、甲状腺機能低下時のサイログロブリン測定は、I-131 による検査、または治療の適応の決定の良い指標となることが示唆された。

18. 高感度 TSH RIA キットの基礎的検討

原 秀雄 長倉 穂積 九島 健二
佐藤 龍次 伴 良雄 (昭和大・三内)

高感度血中 TSH 測定法の開発が望まれている。今回われわれは、3 種類のモノクローナル抗体および 2nd. IRP 80/558 を用いる TSH RIA を入手し基礎的検討を行ったので報告する。対象：健常者 (N) 15 例、パセドウ病患者 (G) 34 例、慢性甲状腺炎患者 14 例、他の疾患患者 9 例、計 72 例。結果：室温 120 分のインキュベーションにて TSH 0.5 ~ 50 $\mu\text{V/ml}$ の測定が可能であり、同時・日差再現性、平均回収率は良好で、LH, FSH, HCG, BHCG とは交叉性は認めず、64 倍希釈まで可能であった。Amerley TSH とは 2 ~ 50 $\mu\text{V/ml}$ 、森らの変法とは 1 ~ 50 $\mu\text{V/ml}$ 、EIA とは 0.5 ~ 50 $\mu\text{V/ml}$ で良好な相関が得られた。N の TSH (1) は $2.57 \pm 2.38 \mu\text{V/ml}$ で、未治療 G (2) は 0.52 ± 0.04 、治療中 G (3) は 1.92 ± 1.91 、寛解 G (4) は 0.73 ± 0.12 で、(1) と (2), (2) と (3), (2) と (4) はそれぞれ $p < 0.025$ で差がみられた。以上の結果から、高感度 TSH RIA 測定法は、TSH 低濃度域における甲状腺機能の判別、臨床応用に有用であると結論された。

19. Neuron Specific Enolase (NSE) RIA の基礎的ならびに臨床的検討

長倉 穂積 原 秀雄 九島 健二
佐藤 龍次 伴 良雄 (昭和大・三内)
真鍋 嘉尚 尾崎 修武 伊藤 国彦
(伊藤病院)

〔目的〕腫瘍マーカーとして新しく開発された血清 NSE RIA を検討した。〔方法〕肺癌 15 例、甲状腺癌 35 例、良性甲状腺腫 18 例、パセドウ病 8 例、糖尿病 9 例、感染症 4 例、妊娠 7 例ならびに健常者 25 例を対象とし、RIA による NSE 濃度を測定した。〔結果〕1) CV はア